

高橋光夫 呑川の会新代表のご挨拶

2012年6月総会で、呑川の会第3代の代表に選任されました。

「この度、呑川の会の名誉ある代表に選任され、心引き締まる思いです。初代代表大坪庄吾さん、第2代代表福井甫さん達が今まで営々として築いてきた15年という長い歴史・伝統をしっかりと受け継ぎ、次の世代に引き継いで行きたいと思っています。

大変、光榮に思っています。

「呑川」は「コンクリート3面張り直立護岸」という、典型的な都市中小河川です。都会に、とりわけ大田区には山は無く、自然と言えば「公園」か「川」になります。私は、会社勤め現役時代は、電気・電子関係のいわば「かたい」仕事をしていました。電機関連の中小企業に勤め、主に商品の設計・開発分野を歩いてきましたが、仕事に追いまくられるさなか、ふっと目にとまったのは、1997年3月「大田区報」の「呑川から都市河川を考える」連続講座の案内。

自分の視野の外にあった世界に心を惹かれ、講座修了後には他の参加者も同じでしたが、「もっと呑川のことを知りたい、深めたい、郷土のことも判りたい」という気持ちが高まったのです。そんなとき、この講座の世話人だった榊原さん、大坪さんらから「呑川の会」設立の呼びかけがあったのです。それは今まで、図面ばかりを見つめ、実験室に閉じこもっていた世界からの大きな飛躍となり、仕事にも活気を与えるものとなりました。それから15年、良くも悪くも一生懸命呑川を観察し、勉強し、最初のころは仕事の合間を縫って、また、会社勤めが一段落してからは、殆どの会合に出席し、お互いに高め合ってきました。

会の設立当時は、私は、どちらかと言うと若輩でしたが、会の歴史15年経過とともに、シニアになりました。私の興味・趣味は、ボランティア活動、子供の健やかな成長を願っての書籍、他に天体観察・天文学、等々あります。大田区環境探検隊の一員として、せせらぎ公園での「米作り」(稲作)の手伝いがあります。そこでの自然湧水を利用した田起こしに始まって、田植え、代掻、草取り、実りの収穫、その間に、田圃に生息するトンボやカエル等の観察を通しての自然環境教育にも、多くの時間を費やしています。

昨年3月11日の東日本大震災後の、被災地でのボランティア活動で、大田区の姉妹都市「東松島市」に数度にわたってお邪魔し 微力ながら、復興のお手伝いをさせていただきました。今後も、出来る限り、このボランティア活動を続けたいと思っています。

最後になりましたが、会員の皆さんはもとより、このHPをご覧の皆様のご活躍とご協力をお願い申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

2012年9月吉日

高橋光夫氏のプロフィール

(生年月日) 1943年(昭和18年)6月26日 東京都生れ。

大学卒業後、某電子工業機械メーカーにエンジニア(技術者)として入社。専門は、電子電気工学、など。1997年5月に、榊原氏、大坪氏と一緒に、呑川の会設立発起人の一人として、参画し、以来、今日まで、長年、呑川の会世話人(会計担当)として、会を支え続けてきた。

2015年以来、「呑川レポート」という件名で、呑川の会会員宛てに、また、

100名以上の呑川の会サポーター宛てに、いわゆる、「フォトエッセー」メールを出し続けています。

(文責 工藤英明)